

マイラ姉急逝

2020年10月に東かがわ市で交通事故に遭われて昏睡状態になった、フィリピン聖公会信徒のマイラ・エステバン・ドッキョゲン姉が、フィリピンに帰国されご家族との再会を果たされた後に体調が急変し、3月18日に逝去されました。

マイラさんは故郷のカリガ州に運ばれ25日に葬儀が行われたとのことです。長い間お祈りいただきまして本当にありがとうございました。

マイラ姉は、交通事故対策



戴帽式でのマイラ姉

機構や労災担当者も前例を知らないほど稀な症状で、日本国内での治療を種々模索してきました。そのような中で、

お父様の病状も悪くなり、ご家族との再会を第一目標に変更しました。

コロナ禍で寝台席であれば1500万円とも言われたストレッチャーでの帰国費用も、何とかクライニング席での帰国が可能と言われるようになり、それでも200万円程の帰国費用の問題もあり、なかなか前に進みませんでした。が、在大阪フィリピン総領事館の方々の尽力で、フィリピン政府が帰国費用の大半

を負担して下さることが決定し、3月半ばの帰国が可能となりました。

良きサマリア人献金約180万円の募金により、お母様のメロデイさんと妹のレアさんは約2年間日本に滞在することが出来ました。コロナ禍ではありましたが特別面会が許されることもありました。お母様はお父さんのロレンゾさんの体調が思わしくないともあり一足先に帰国されましたが、帰国直前までご家族を支えることが出来ました。感謝いたします。

今後成年後見人の最後の仕事として休業給付金の申請を済ませ、資金が残った場合にはマイラさんの財産をフィリピンに送金する時に併せて送金したいと思えます。

天に召されたマイラさんが安らかに憩われ、ご家族の上には主の豊かな慰めをお祈りいたします。

(神戸教区マイラ姉支援室)
室長 司祭 上原信幸

東北教区・東日本大震災12周年記念礼拝

2023年3月11日、東日本大震災から12年が経ちました。直接被害を受けた人にとっては昨日のように感じ、被害を受けていない人にとってはずいぶん昔のような感覚があるかと思えます。

今年の東北教区の12周年記念礼拝では、原発のない世界を求めることを中心に祈りの時がもたれました。

説教の中で吉田雅人主教は次のように語られました。「福島第一原発の廃炉や、たまり続ける汚染水の海中投棄の問題、汚染廃棄物の最終処分をどうするのかという問題・課題は数え上げればきりががないということになります。このような状況の中で私たちはどうすればいいのでしょうか。私たちにできることは何かあるのでしょうか。」そして聖書を引用され「私たちにできることは少なくとも被災された方

の生活が再建されるまで、そしてそれと同時に私たちの生活が原発の危険に脅かされることのないようになるまで祈り求めるということでしょう。また、選挙の時の政治的選択であったり、ボランティアの働きに関わるのであれば少しでも加わることやそれらの働きを支える働きもあるかと思えます。」と語られました。

礼拝後は、会津放射能情報センター代表片岡輝美氏を講師に迎えメッセージが語られました。「主に喜ばれる生き方を吟味する」福島からのメッセージ」として、『放射能安全神話』に抗い、声を上げ続ける私たち」ほか、私たちのあり方を問うメッセージが語られました。説教と講演会は東北教区のYoutubeで見ることが出来ます。ぜひご覧ください。

(社会部 宮田裕三)